

プログラム 8

私たちの食について考えよう（エコライフ）

目的

- ・ 現在の食の問題についてみんなで考え、問題に対してどのように取り組んでいくのかを考える。
- ・ 世界みんなが安心できる食のあり方と、自分自身の生活で取り組めることを考える。

概要

最近の食についての様々な問題を、自分たちの知識の中から拾い出して分類する。また、「世界が 100 人の村だったら」を教材として、世界と日本との食によるつながりについて理解を深める。そして、これらの問題に対して、自分たちで取り組めることを見つけ出す。

対象

小学生から大人まで（人数は 10 名程度以上）。

実施時期

いつでも実施可能。

所要時間

2 時間程度



「世界がもし 100 人の村だったら ③たべもの編」
マガジンハウス HP より引用

<http://book.magazine.co.jp/>

準備物

<導入～まとめ>

- ・ 資料「世界がもし 100 人の村だったら たべもの編」（池田香代子（編）、マガジンハウス（編）から一部抜粋）
（富山県立図書館、富山市立図書館、高岡市立中央図書館などに蔵書があります。）
- ・ 導入で使用する A4 裏紙（参加者数分）
- ・ 付箋紙（ポストイットなど名刺大程度のもの。100 枚綴りをグループ数分）
- ・ フェルトペン（裏うつりしないものが望ましい。8 色程度のセットをグループ数分）
- ・ 模造紙（グループ数×2 枚）

<振り返り>

- ・ 振り返りシート（参加者数分）

内容

<導入>

- ・ 参加者みんなに裏紙を1枚ずつ配布し、「名前」「最近のお気に入り献立の絵」「食べものについての思い出」を書いてもらう。
- ・ 書き終わったら、適当に2人一組になり、書いた内容を紹介しあう。2分程度。
- ・ 紹介し終わったら、相手をかえて2人一組になり、再度紹介しあう。
- ・ 5人くらいと紹介し終えたら、聞いた話の中で「魅力的だと思った献立」と「印象に残った思い出話」を何人かの参加者に発表してもらう。

<食について気になることのブレインストーミング>

- ・ 5、6人のグループに分ける。
- ・ 各グループに、付箋紙とフェルトペンを渡す。参加者は好きな色のフェルトペンを選ぶ。
- ・ 各グループで、「“食”に関して最近気になっていること」をテーマに、ブレインストーミングを行う。ブレインストーミングは、できるだけたくさん考えを出す方法で、自分の考えを「短い言葉で」「より多く」フェルトペンで書き出す。ブレインストーミングでは、意見をたくさん出すために「質問・議論しない」「突飛な意見も歓迎する」という点に注意する。参加者は自分の意見を一つずつ、1枚の付箋紙に書き込む。
- ・ 書いた付箋紙は、他の人に見えるように、グループのテーブルの中央に置く。

<『地球がもし100人の村だったら～たべもの編』で気づいたこと>

- ・ 資料「地球がもし100人の村だったら たべもの編」を紹介し、抜粋を朗読する。参加者で順に朗読してもよい。参加者の学年などを考慮して適宜説明を加えたり、抜粋し直したりしてもよい。
- ・ 朗読のあとに、参加者は、「“食”に関して最近気になっていること」を、さらにブレインストーミングの要領で付箋紙に記入して追加する。

<マッピング：「世界と私たちの食べもの」>

- ・ 各グループに模造紙を1枚配布する。模造紙の上部に「世界と私たちの食べもの」と題して、付箋紙を分類しながら張りつける。
- ・ この際に、付箋紙に書かれた内容をみんながよく見て分類し、関係の濃いものを近くに、関係の薄いものを遠くに離すようにして配置する。分類した集まりにタイトルを付けたり付箋紙やそのまとまりの間関係性があれば、わかりやすいように書き込む。
- ・ 各グループは、まとめた内容を発表する。
- ・ 気がついたこと、印象に残ったことなどを、何人かに聞いてみる。

<まとめ：私たちにできること>

- ・ 模造紙にまとめたものを見ながら、各グループで自分たちにできる取り組みについて考える。
- ・ その取り組みを、なるべく具体的な取り組み案に作り上げる。
- ・ 各グループは、まとめた内容を発表する。

<振り返り>

- ・ 今日の活動で気付いたことなどを各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどをみんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 実施時間が長い場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

展開や応用

- ・ スーパーなどの店舗で、食品がどこから来ているのかを調べてみる（「えび」のプログラムを組み合わせるのもよい）。
- ・ 他の「世界がもし100人の村だったら」のシリーズをみんなで読んでみる。
- ・ 他の題材でもこのプログラムの手法が活用できる。

プログラム提供団体

団体名・担当者名 とやま国際理解教育研究会 定村 誠

住所 富山市吉作117 大栄ハイツ3-206

電話番号 076-434-095

電子メール keh00171@nifty.com

ホームページ http://www.geocities.jp/tie_toyama/

団体の概要 とやま国際理解教育研究会（TIE）は、「地球規模で考え、地域で行動しよう（Think globally, act locally）」を实践する市民団体です。1996年発足以来、公正で持続可能な、地球社会・地域社会づくりをめざす仲間が集い、活動しています。ワークショップ（参加体験型学習）の進行役であるファシリテーターを育成し、地域の中で「参加型の学び」を発展させていくことを目的としています。